

■大関増裕 下野国黒羽藩主。若くして陸海軍奉行となり兵制改革や軍隊教育に努めたが、〈大政奉還〉の衝撃で自殺。

おおぜきますひろ

大塩平八郎乱1837= 遠江横須賀藩世子西尾忠宝の次男として生まる。

阿部正弘首座1845= 8歳 :

孝明天皇・・1846= 9歳 :

ペリー来航・1853=16歳 :

安政大地震・1855=18歳 :

桜田門外変・1860=23歳 :

遣欧使節・・1861=24歳 : *養父の黒羽藩主大関増徳のあとを継ぐ。その人材を認められ、

生麦事件・・1862=25歳 : *講武所奉行・初代陸軍奉行・海軍奉行を歴任し、幕府の洋式兵制の制定に参画。親衛軍の建設ならびに歩・騎・砲の3兵科将士の養成と編制を上申し、幕府はこれを容れて新陸軍をつくり、陸軍奉行を置く。また海軍拡張案を提唱し、全国海岸を6海軍区に分け、大小軍艦370隻の建造を計画。他方、家老らの要請に対し、士民撫育・府軍充実・兵備拡張・土地開拓など富国強兵を旨とした7ヵ条を断行するために全権を与えるならば、幕府の役職を辞し、入部して藩政改革にあたりと回答、家老・諸役人も同意したので、

8月18日政変 1863=26歳 : *病気を理由に陸軍奉行を辞職して領地に赴いた。幕府の計画は実現をみるに至らなかったが、これより腐敗した藩政の刷新につとめ、要路に人材を登用して借上・儉約・年貢増徴のほか、いったん廃止された専売仕法を再興し、殖産興業に力を入れて藩財政のたて直しをはかる。これと平行して軍備の充実にも意を用い、幕府の兵制にならって歩・騎・砲3兵を編制するとともに領内農工商の子弟をもって農兵を組織し、軍政を一般政務と分離して藩主に直属させた。

禁門の変・・1864=27歳 :

薩摩藩士密航1865=28歳 : _再び海軍奉行に任命され、樺太開拓まで計画、

大政奉還・・1867=30歳 : *外様大名でありながら若年寄に抜擢され海軍奉行を兼ねた。その在職中、重ねて海軍拡張を計画し、海軍学校章程以下諸規則を起案したが、急死により挫折した。大政奉還に衝撃を受けて自殺したとみられる。